

## 第7章 戦略策定の経緯等

### 1. 戦略策定の経緯

実施時期	内容
平成23年3月	倉敷市第二次環境基本計画策定
平成23年10月	くらしきネイチャープラン(2011～2020)策定
平成23年10月	第1回倉敷市生物多様性地域戦略策定方針検討会開催
平成24年3月	第2回倉敷市生物多様性地域戦略策定方針検討会開催
平成24年6月	生物多様性シンポジウム開催
平成24年8月	第1回倉敷市生物多様性地域戦略策定委員会開催
平成24年11月	いきものまちづくり懇親会(地域戦略の説明や情報交換会)開催
平成25年2月	第2回倉敷市生物多様性地域戦略策定委員会開催
平成25年8月	第3回倉敷市生物多様性地域戦略策定委員会開催
平成25年10月	第4回倉敷市生物多様性地域戦略策定委員会開催
平成26年2月	第5回倉敷市生物多様性地域戦略策定委員会開催
平成26年3月	倉敷市生物多様性地域戦略策定

## 2. 倉敷市生物多様性地域戦略策定委員会

### 【検討委員】

名 前	所属・役職	備 考
青江 洋	NPO法人倉敷水辺の環境を考える会代表	倉敷市環境審議会委員
井上 堅太郎	岡山理科大学非常勤講師	元岡山理科大学教授
○榎本 敬	倉敷市立自然史博物館友の会会長	元岡山大学准教授
梶田 博司	財団法人おかやま環境ネットワーク理事	元川崎医療福祉大学教授
片岡 博行	重井薬用植物園園長	倉敷の自然をまもる会理事
◎河邊 誠一郎	倉敷芸術科学大学教授	倉敷の自然をまもる会顧問
小林 秀司	岡山理科大学准教授	倉敷市環境審議会委員 岡山県自然環境保全審議会委員
洲脇 清	NPO法人鷲羽山の景観を考える会理事	
豊田 光世	兵庫県立大学講師	
八島 一也	三菱瓦斯化学株式会社水島工場環境保安室長	倉敷市環境審議会委員
山口 雪子	岡山短期大学准教授	一般社団法人イブネット・ジャパン顧問
渡邊 則文	岡山西農業協同組合営農部部長	

◎…委員長, ○…副委員長

(五十音順, 敬称略)

### 【事務局】

環境リサイクル局 環境政策部 環境政策課 自然保護係

### 【協力】

倉敷市立自然史博物館

### 3. 市民懇談会

平成 24 年 11 月に、市内 3 カ所で「いきものまちづくり懇談会」を開催しました。懇談会では、生物多様性地域戦略とはどのようなものかを説明するとともに、市民の皆さまから自然環境の保全、利活用に関する身近な地域の情報や課題をお伺いしました。

「私たちが地域の生き物や環境に対してできること」として、「生物多様性主流化の推進」、「自然共生社会、循環型社会、低炭素社会の統合的な取り組みの推進」、「野生生物の適切な保護管理等」の意見が多く出されました。市全域で、最も注目されるハビタットは河川・水辺であり、市街地、森・山がそれに続きました。市内で見られる生き物や環境に関するキーワードとしては、ホタル、カワセミ、シャコ、クマゼミ、里山、三方コンクリート等が挙げられました。

市民懇談会で伺ったご意見は、倉敷市生物多様性地域戦略に反映させていただきました。

《テーマごとに得られたキーワード》

自慢できること		増えた・減った		生き物や環境に対してできること	合計 (個)
生き物	生き物や自然 に関連する事項 または環境など	生き物	生き物や自然 に関連する事項 または環境など		
346	151	209	127	228	1061

《「私たちが地域の生き物や環境に対してできること」》

主な意見	生物多様性主流化の推進
	・「できるだけ自然を大切に」を意識する。 ・子どもたちが生き物と安全に触れ合える場所を沢山つくる。 ・自然観察会やボランティアに参加する。
	自然共生社会、循環型社会、低炭素社会の統合的な取り組みの推進
	・大量生産、大量消費からの意識転換をする。 ・環境に配慮したまちづくりをする。 ・もったいない習慣をつける。
	野生生物の適切な保護管理等
	・用水路の自然化を図り、川をきれいにする。 ・自然保護の活動に協力する。 ・できるだけ緑を増やすようにする。
	情報整備・技術開発の推進
	・生物調査を行う。 ・くらしきの自然をPRする。

### 写真提供

青野孝昭

榎本敬

狩山俊悟

越山洋三

笹田富夫

洲脇清

田賀辰也

多田英行

藤本義博

守安敦

倉敷市立粒江小学校

倉敷市立自然史博物館

### イラスト協力

越山洋三

樋口真里子

※ 携帯電話やスマートフォン等を撮影した写真をメール送信し、インターネット上の地図に表示するシステム。どなたでも参加可能。

URL:<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/dd.aspx?menuid=5095>